

令和5年度 大阪府高津高等学校 第2回学校運営協議会 会議録

日時：令和5年12月19日(火) 18時10分～19時

場所：本校校長室

出席者：委員 森田 英嗣（大阪教育大学教授） <オンライン参加>

安田 智則（前 PTA 会長） <オンライン参加>

岡田 邦弘（PTA 会長）

古門 真一（同窓会副会長）

事務局 立川 猛士（校長）、井上 博人（教頭）、大谷 則明（事務長）

前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席）、井濱 友輔（首席）

菅 康之（書記）

1. 令和5年度「学校運営計画」の進捗状況について(学校長より)

(1)「確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取り組みの推進」について

- ・英語運用能力向上のため本年度も同窓会からの資金援助で KITEC を実施。生徒の肯定的意見は基礎コース 96.6%、発展コースは 100%であった。
- ・創造探究事業については現在、事業参加生徒数は 1,000 名を超えている。
- ・1 年体験型進路学習では本年度は特に生徒のプレゼン作成過程を保護者に観てもらう機会を設け好評であった。

(2)「スクールアイデンティティーに基づく豊かな心の育みと規律・規範の確立」について

- ・遅刻者数は増加傾向である。この傾向はコロナ以降本校だけでなく各校で問題になっている。

(3)「教職員の資質の向上と学校運営体制の確立」について

- ・校務の効率化・情報共有化は中々進んでいないが、私学無償化・少子化及び、本校教員の入れ替わりも進んでいることを踏まえて、現在行っている事業の再確認や検討を進めている。
- ・様々な説明会に参加し、中学生が私学や他の分離学科の高校へ流れないよう、本校の魅力を伝えている。特に本年度は塾や中学校の先生を対象とした説明会を本校で2回実施し、100 名を超える参加者があった。

2. 大阪教育ゆめ基金の活用について(学校長より)

目標金額 400 万を上回る 500 万円の寄付があり、各フロアにデジタルサイネージを来年5月入札、6月設置の予定で進めている。この設置により、生徒だけでなく教員も廊下を歩きながら本校の活動・事業情報を知ることができる。これも同窓生のおかげであり感謝している。

3. 各種事業について(学校長より)

(1)高津高校クリエイトラボセミナー

11 月はカルビーでフルグラの売り上げを年間 300 億円に達成した卒業生によるマーケティングの話があった。また、12 月は国立天文台教授（併任 東京大学教授）の卒業生による太陽系外惑星における生命体の発見の可能性についての話を 70 名あまりの生徒が興味を持って聴いていた。

(1) さくらサイエンスプログラム

水質や大気の検査にかかる研修・実習を行うだけではなく、文化交流会では英語を使ったゲームをする等して交流を深めた。

(2) SSH 交流支援事業

- ・地域の小中学生対象の科学実験教室では、今年初めて実験だけでなく研究発表会も設けた。科学部の生徒はとてもよくやってくれた。本校理科の教員も小中学生に実験させるための予備実験まで行うという徹底ぶりで団結力を感じた。
- ・10 月には本校の課題研究のノウハウの普及活動として、LCⅡの授業公開や説明会を行い、大阪の GLHS のような高校を検討している奈良県等の高校が参加。今後も山口県から来校予定

(3) GULS (Global Understanding with Local Skills)

市内高校への公平な募集となったため、高津生の希望者を多く受け入れるにはどうすればよいかなど次年度に向けての交流センターとの打ち合わせを 12 月 21 日に行う。講師・会場費用等の課題もあり、会場を本校に等の案も検討中。

(4) 海外との交流

- ・韓国、台湾、フィリピンとのオンライン交流を ESS・英語科教員の協力を得て実施。
- ・韓国の高等学校理科教員の視察が 8 月に行われた。コロナで中断していた分もあり来年 1 月には更に 2 度行われる。アンケートでは高津での視察が一番よかったということである。
- ・12 月 1 日にクイーンズランドの高校生との交流が行われた。先方の演奏会を鑑賞することから始まり、その後、本校吹奏楽部とのコラボ演奏や希望生徒たちとの交流を行った。
- ・12 月 5 日にカザフスタンから高等学校校長の授業視察・意見交流会が行われた。

4. その他（校長より）

「食堂モバイルオーダーシステム」について

生徒がスマホから食堂のメニューを事前に注文できるシステムを開発した。これにより注文するまでの並ぶ時間の削減だけでなく、食堂側の食品ロスの減少にもつながった。また、マスコミにも取り上げられ、生徒も社会実験に関わることで良い経験になった。

5. 質疑応答

委員：2 年体験型進路学習の研究室訪問先で、生徒が実験をする際の器具や薬品の費用は本校が負担したほうがよいのではないか。

校長：実験以外でも研究室のご厚意に頼っている部分があるので検討したい。

委員：新転任者が増えているとのことだが、本校の現事業等の共通理解を持つための研修はどのように行われているのか。

校長：本校のキャンパスツアーに参加、あるいはその内容を職員研修で説明している。ただ、キャンパスツアーは土日に行われるので、参加の配慮も行わなければならない問題もある。

委員：キャンパスツアーを録画して観てもらうのもいいと思う。

委員：遅刻者の増加の原因は何か。欠席者数も増えているのか。

校長：コロナ時は少しでも体調不良の場合は無理せず休むことができる状況にあった。それが定着してしまい、出席に対する認識がコロナ前と変わってしまっている。

首席：府の高校が集まる生活指導部会でも、どの学校も体調不良を理由とする遅刻が増えていることが報告され問題視されている。ただ、その理由を認めないわけにもいかず苦慮している。欠席も同様の理由で増えているのが現状である。

委員：何か手立てはあるのか。

首席：各学年で工夫をしている。例えば、遅刻者に振り返りシートを作らせたり、デジタルサイネージで色々な呼びかけを流したりして我慢強く指導している。

委員：科学・理科に力を入れているが、大学理系学部では大学院進学や薬学 10 年パッケージ、東工大でも 6 年制コースなどが人気である。企業もそれを求めている部分があるので、生徒にそのような状況を今から示しておいたほうが良い。大学入学より大学院入試の方が厳しい面もある。

校長：阪大キャンパスツアー等で大学教授からレクチャーを受けている。また、高津クリエイトラボ等においても、大学教授の体験談でお話いただいている。

委員：他校からの視察が多いのは何か特別な発信をしているからか。

首席：説明会や発表会の案内を本校 HP や JST の HP に掲載しているので、それを見ていただいていると思われる。

委員：生徒のアプリ開発、AI の学校での活用について府教委・学校の方針はどうか。

校長：生徒の AI 使用について学校としての取組みはない。教師が使用する場合は報告する規則になっている。

委員：今後、生徒がどう AI を使っていくかが課題となる。

委員：今の生徒はやることが多く大変なので、落ちこぼれてしまう生徒も多いのではないかと。また、そんな生徒のフォローをする先生も多忙ではないか。

校長：本校では登山や遠泳などの行事ではなく、様々な創造探究事業を生徒に提供している。その中から生徒が選択する。これらの事業を役立てる生徒も多いが、一方でしんどくなる生徒も存在する。高校生活とバランスを考えて両立することが社会に出ても必要となるので、生徒へのケアも行いつつ進めていきたい。

6. 事務連絡

第 3 回学校運営協議会の日程については令和 6 年 3 月下旬を予定